

基本目標1

自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透
◆数値目標

項目	目標値（年度）	R01	H30	H29
1 本市が取り組む環境学習プログラムとしてのエコツアー参加人数	6,500人（2020）	4,352	4,512	4,285
2 響灘ビオトープのガイドツアー参加人数	4,000人（2020）	4,987	4,659	4,476
3 自然環境体感ツアーの参加人数	500人（2019 累計）	579	479	312

◆基本施策に基づく主な取組

響灘ビオトープガイドツアー・自然体感ツアー（エコツアー（自然観察講座））

種苗放流・藻場等の環境保全活動（5箇所）（水産環境の保全）

竹の搬出（133t）・竹等粉砕機の貸出（14件）（里山の新しいあり方の検討）



基本目標2

地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成
◆数値目標

項目	目標値（年度）	R01	H30	H29
1 小学生の環境体験科における響灘ビオトープ活用数	25校（2024）	11	22	21
2 響灘ビオトープのガイドツアー参加人数【再掲】	4,000人（2020）	4,987	4,659	4,476

◆基本施策に基づく主な取組

環境首都検定（受験者数 5,117人）（環境学習事業の推進）

小学校への児童・先生を対象にした食や農業の出前授業や体験活動（小学校16校 1,077人）（農業体験を通じた食農教育の推進）

ほたと水辺の環境学習会（年5回 80名参加）（ほたるのふるさとづくり）



基本目標3

自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮
◆数値目標

項目	目標値（年度）	R01	H30	H29
1 自然環境保全に取り組む団体への支援件数	10件（2024）	13	14	12
2 「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動参加者数	約2,000人（2024）	1,000	2,700	2,700

◆基本施策に基づく主な取組

春と秋の市民いっせいまち美化（まち美化ボランティア参加者数 129,001人）（さまざまな主体による美化活動の一環としての自然環境の保全）
首都圏等へのセールス（274件）
観光客数（動態調査結果）（2420.8万人）（平尾台の保全と利用）

HPでの広報、ヒアリ・アカカミアリ調査（月1回）（外来種に対する市民啓発の実施）



基本目標4

人と自然の関係を見直し、自然から多くの恵みを感じることができる状態の維持
◆数値目標

項目	目標値（年度）	R01	H30	H29
1 環境首都100万本植樹プロジェクトによる植樹本数	1,000,000本（2024 累計）	727,046	717,645	704,724
2 市街地（市街化区域）の緑の確保	9.5%（2020 累計）	8.4	8.3	8.3

◆基本施策に基づく主な取組

R01末時点での累計植樹本数 727,046本（環境首都100万本植樹プロジェクト）

環境影響評価審査会（3回 配慮書2件、準備書1件）（環境影響評価制度に基づく環境配慮）

環境配慮点検制度の運営（44件の公共事業について点検）（北九州市環境配慮指針の活用推進）

基本目標5

自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用
◆数値目標

項目	目標値（年度）	R01	H30	H29
1 ベッコウトンボ市民調査実施回数	3回（2020）	0	3	3
2 曾根干潟における生物調査の実施	4回（2020）	8	6	8

◆基本施策に基づく主な取組

ベッコウトンボ市民調査（頭数減少により休止）
曾根干潟環境調査（鳥類調査、底生動物等調査）
曾根干潟モニタリングサイト1000（環境省実施）（実態把握の推進）

「自然環境情報GISデータベース」の構築
今後、希少種や分布情報のデータ整理、調査結果集約に向けた庁内連携及び共通様式の作成を検討。（GISを用いた自然情報データベースの充実と維持管理）

◎ 本戦略とSDGsのゴールの関係

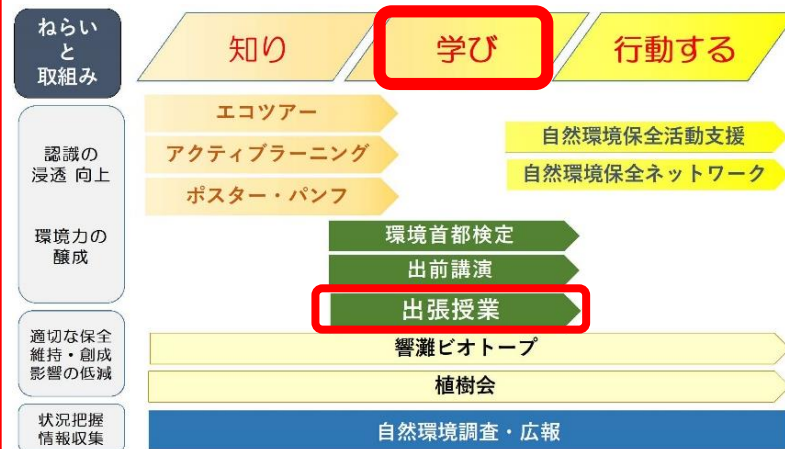
SDGsのゴール	本戦略 基本施策との関わり	施策数
2 飢餓をゼロに	農林水産業の推進による持続可能な食糧生産システム確保など	1
3 すべての人に健康と福祉を	様々な主体による植樹の実施や環境に配慮した開発事業の実施など	6
4 質の高い教育をみんなに	自然環境学習を通じたESDの推進など	20
6 安全な水とトイレを世界中に	水に関連する生態系の保護・回復など	12
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	バイオマス資源などの再生可能エネルギーの積極活用など	4
8 働きがいも経済成長も	自然の観光資源としての活用や様々な生態系サービスの提供など	8
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	生態系を利用した防災・減災の推進による持続可能で強靱なインフラ整備など	15
11 住み続けられるまちづくりを	都市緑化の推進や生態系を利用した防災・減災など	20
12 つくる責任つかう責任	バイオマス資源などの再生可能資源の積極活用など	9
13 気候変動に具体的な対策を	森林の適正管理による森林吸収源、バイオマス資源の積極活用など	12
14 海の豊かさを守ろう	海洋及び沿岸の生態系保全、資源回復に向けた取組など	34
15 陸の豊かさを守ろう	森林の適正管理や生態系の場の保全、希少種の保護、外来種対策、環境アセスメントの推進など	45
17 パートナースhipで目標を達成しよう	団体や企業、自治会等との協働による自然環境保全活動の実施など	8

「15. 陸の豊かさを守ろう」
「14. 海の豊かさを守ろう」
生物多様性（陸・海の生態系）の保全に寄与
「4. 質の高い教育をみんなに」
「11. 住み続けられるまちづくりを」
本戦略における都市緑化や環境学習等の取組がまちづくりや教育にも貢献

◎ 今後の取組み

R1年度市政モニターアンケートにおいて、生物多様性は56.6%、本市の自然環境保全の取組は60.4%が認識しており、よい取組を積極的に行っている、継続してほしいといった意見があった。

これらの結果を踏まえ、今後は次世代を担う子供たちを対象に小学校での出張授業や体感講座等を実施するほか、幅広い年代に向けた生物多様性に関する「学び」に係る取組みを積極的に行い、自ら「行動する」人材の育成を図る。



◎ 総合評価

- ・数値目標（11項目）のうち6項目で目標を達成
- ・60の基本施策において、基本目標の達成に向けた取組みを推進

第2次北九州市生物多様性戦略は、おおむね順調に進捗。